

クロマルハナバチ利用上のお願い・・・イチゴ

マルハナバチ販売会社等の説明を受けた上で御利用下さい

1 ハウスの面積が10a以上で花が多い

1. イチゴでの標準的な利用面積は10a～20a/1巣箱です。
2. マルハナバチはミツバチより活発に活動しますので、1,000㎡以下のハウスでは過剰訪花になり、果実に傷がついてしまうことがあります。
3. 特に5a以下の小面積のハウスやハウス面積が大きくても極端に花が少ない時期に利用する場合には、花卉の爪痕を観察し、場合により使用を中断することも必要です。(標準面積下で利用した場合には、花卉にはほとんど爪痕ができません)



マルハナバチによる極端な過剰訪花でできた花卉の傷跡と変色。



イチゴの花上に覆いかぶさるように訪花するので、ミツバチより授粉効率が良い。

2 ハウスサイドなどの換気部にネットが張ってある

1. マルハナバチは、ハウス外の花にも積極的に訪花します。
2. ハウスサイドや天窓に4ミリ目以下のネットが張っていないと、イチゴの花に訪花するハチが極端に減ってしまうことがあります。
3. ハウスの外に出たハチの多くが、モズなどの鳥に食べられてしまうことがあります。ハウスにネットが無いと、数日で巣箱がダメになってしまうことがあります。

3 巣箱の基本的な管理ができる

1. 低温期には、マルハナバチの巣箱を保温する必要があります。
2. 低温で巣箱内の幼虫が弱るとマルハナバチの活動も鈍くなり巣自体もダメになってしまいます。
3. 夜温が12℃以下になる場合には、毛布などを利用して巣箱を保温(右図)することが重要です。
4. 反対に、温度が上がる日中には、毛布をとることが必要です。



4 その他のお願い

1. マルハナバチは「在来種クロマルハナバチ」と「セイヨウ種セイヨウオオマルハナバチ」の2種類が販売されています。
2. セイヨウオオマルハナバチは、ハウス外に逃げ出すと日本の生態系に多大な悪影響を与えることから「外来生物法」で規制されています。セイヨウオオマルハナバチを利用する場合には、購入する前に環境省の許可を得ることが必要です。
3. 在来種のクロマルハナバチは許可等は必要ありませんが、ハウスサイドなどにネットの張っていないハウスには、正常な受粉が期待できない為、出荷をご遠慮させて頂くことがあります。